

2024 年度入学生用
(令和 6 年度)

看護学部要覧



大阪公立大学 看護学部

目次

I. 看護学部 of 教育目的・目標等	1
II. 履修要項	
1. 学科等の名称、卒業時の学位、入学定員	3
2. 学年・学期・授業期間等	3
3. 授業時間	3
4. 授業科目の種類	4
5. 授業科目の単位、単位制	4
6. 履修課程と履修上の注意	5
7. 科目ナンバリングのルール	8
8. 履修登録	8
9. 成績評価・試験	9
10. 成績評語と GPA 制度・CAP 制	11
11. 既修得単位等の認定	12
12. 定期試験受験心得	13
13. 成績評価についての異議申立	14
14. 休講・欠席について	14
15. 副専攻	18
16. 他大学との単位互換制度・単位互換科目	18
17. 転学部（学域）・転学科（学類）等	18
18. 前期終了時の卒業	19
19. 学籍について	19
20. 修学上の配慮・支援について	20
21. 教育学習支援基盤「ていら・みす」での学修記録の記入	20
22. 「実践看護科学コース」と「先進ケア科学コース」	20
23. 実習科目の履修要件	21
24. 卒業資格（卒業要件）	22
25. 基幹教育科目履修課程	23
26. 標準履修課程表	24
27. 履修モデル	26
28. 養護教諭一種免許状取得	30
29. 新生児蘇生法「一次」コース修了認定資格	32
30. 看護師国家試験受験資格	32
31. 大学院科目の先行履修制度（学士修士一貫プログラム）	32

I . 看護学部 of 教育目的・目標等

■教育目的

学部においては、人々の生命と個人の尊厳を尊重できる豊かな人間性、看護学の専門的知識・技術と科学的根拠に基づいた適確な看護実践力、並びに保健医療福祉をめぐる社会の変化への柔軟な適応力を有し、看護と看護学の発展に寄与できる多様な強みを併せ持ち、全人的に人を理解し、倫理観をもって行動できる力、ケアをつなぎ適切な判断と課題解決能力をもって看護を実践する力、総合的な視野をもって看護を探究しながら自己を研鑽し、社会の変化に適応し、地域と国際社会に貢献する力を兼ね備えた看護職者となる人材を養成する。

■教育目標

教育目的をふまえた教育実践により、卒業時には次のような能力を有し、看護職として広く社会に貢献できる人材を育成する。

- (1) 人間の生命の尊厳と価値観の多様性について深く理解し、幅広い教養とコミュニケーション力を身につけ、看護の対象となる人を生活者として全人的に捉える能力を養う。
- (2) 人々の権利を尊重し、看護職として倫理観をもって行動する能力を養う。
- (3) 看護に必要な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく適切な判断と課題解決能力をあわせ、看護を実践できる能力を養う。
- (4) 保健・医療・福祉・教育・地域など多様なフィールドにて、ケアの対象となる人々のニーズをふまえて、多職種とともにケアをつなぐ力を養う。
- (5) 看護学への関心を深め、必要な情報を自ら系統的に収集・分析する研究の基礎能力を修得し、社会で発展する看護を探究する力を養う。
- (6) 変化する社会の中で看護の役割と責務を展望し、社会の変化や医療技術の発展に対応でき、生涯にわたって自らのキャリアを発展させる能力を養う。
- (7) 地域と国際社会で活動し、貢献できる能力を養う。

■ディプロマ・ポリシー

(1) 全人的に人を理解する力

人間の生命の尊厳と価値観の多様性について深く理解し、幅広い教養とコミュニケーション力を身につけ、健康の本質を理解し看護の対象となる人を生活者として全人的に捉える能力を身につける。

(2) 倫理観をもって、行動する力

人々の権利を尊重し、看護職として倫理観をもって行動する能力を身につける。

(3) 適切な判断と課題解決力をもって、看護を実践する力

看護に必要な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく適切な判断と課題解決能力をあわせ、看護を実践できる能力を身につける。

(4) ケアをつなぐ力

保健・医療・福祉・教育・地域など多様なフィールドにて、ケアの対象となる人々のニーズをふまえて、多職種とともにケアをつなぐ力を身につける。

(5) 看護を探究する力

看護学への関心を深め、必要な情報を自ら系統的に収集・分析する研究の基礎能力を修得し、社会で発展する看護を探究する力を身につける。

(6) 自己を研鑽する力

変化する社会の中で看護の役割と責務を展望し、社会の変化や医療技術の発展に対応でき、生涯にわたって自らのキャリアを発展させる能力を身につける。

(7) 地域と国際社会に貢献する力

地域と国際社会で活動し、貢献できる能力を身につける。

■カリキュラム・ポリシー

(1) 教養を身につけ、社会を見わたした上で学部で学ぶことについて見通しをたてられる。

(2) 看護の対象となる人と健康の本質を理解する。

(3) 倫理観をもち看護の本質や基盤となる考え方を理解する。

(4) 学生の多様な興味、キャリアデザインを尊重し、履修モデルとして実践看護科学コースと先進ケア科学コースを設置する。

(5) 学生の主体性を尊重し、少人数で自律的に学修することを重視する。

(6) 講義、演習、実習の一連の関連性を重視し、特定の看護専門領域への志向性をつける。

Ⅱ．履修要項

1．学科等の名称、卒業時の学位、入学定員

専攻	学位	入学定員
看護学科	学士（看護学） (Bachelor of Science in Nursing)	160

2．学年・学期・授業期間等

学 年：4月1日～翌年3月31日

学 期：前期：4月1日～9月23日

後期：9月24日～翌年3月31日

休業日：

- ① 日曜日および土曜日（授業調整日除く）
- ② 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日（祝日授業日を除く）
- ③ 春季休業3月20日から4月7日まで
- ④ 夏季休業8月10日から9月23日まで
- ⑤ 冬季休業12月24日から1月7日まで
- ⑥ その他学長が必要と認めた日

詳しい授業期間および試験期間等は、各年度当初に定められる「学事日程」によります。「学事日程」は、毎年度、本学Webサイトなどで確認してください。

ただし、担当教員が必要と認めたときは、その他の期間に授業や試験が行われることがあります。

3．授業時間

時限	時間
1 時限	9:00-10:30
2 時限	10:45-12:15
3 時限	13:15-14:45
4 時限	15:00-16:30
5 時限	16:45-18:15

4. 授業科目の種類

授業科目は、基幹教育科目、専門科目、資格科目および副専攻科目に区分されています。基幹教育科目は主に1年次・2年次において学び、多くの専門科目は2年次以降に学びます。

全学部・学域に共通した基幹教育科目は総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれます。

○科目区分および開設部局（特例科目を除く）

科目区分			開設部局
基幹教育科目	総合教養科目		国際基幹教育機構
	初年次教育科目		
	情報リテラシー科目		
	外国語科目	英語	
		初修外国語	
	健康・スポーツ科学科目		
	基礎教育科目		
専門科目			各学部・学域
資格科目		教職科目	国際基幹教育機構
副専攻科目			各学部・学域 国際基幹教育機構

(1) 専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択の区分は、標準履修課程表を参照してください。

(2) 基幹教育科目、資格科目、副専攻科目の履修については、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」等を参照してください。

5. 授業科目の単位、単位制

大学における授業科目の単位においては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。単位の計算方法は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して決定します。

本学部（学域）において開講する科目は次に掲げる基準により単位数を計算します。

授業の方法	授業時間	単位数
講義・演習	毎週2時間 15週	1又は2単位
実験・実習・実技	毎週2時間 15週	1単位

※大学において1単位の修得には「45時間」の学修が必要であり、その際の「1時間」は実際の45分に相当します。「2時間」は90分授業（1時限）に相当します。

上記の表を見ると、1週2時間の講義・演習を15週受けると2単位修得できるよう

に見えます。しかしながら、2 単位を修得するためには 90 時間学修することが基本となっており、授業を受けるだけでは不十分です。すなわち、2 単位の修得には、毎週 2 時間の講義の前後に 2 時間の予習と 2 時間の復習をすることが前提となっています。この前提に基づいて、授業では多くの課題（宿題）が課せられることがあります。大学では、常に予習、復習を行いながら授業を受けることが履修の基本であることを忘れないでください。

6. 履修課程と履修上の注意

（1）基幹教育科目

基幹教育科目は、総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれています。科目名や単位数、必修・選択の区分、配当年次等については、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」および本冊子に記載されています。

① 総合教養科目

総合教養科目は、思考力、表現力、判断力の基盤の上に、幅広い知識を総合的に活用できる能力を身に付けることを目的としています。

② 初年次教育科目

初年次ゼミナールは、高等教育での主体的な学びを大学入学直後に身に付けることを目的としています。グループディスカッションを通した課題発表等の自発的学修、プレゼンテーションやレポートによる自己表現の経験、異なる視点との出会いによる自己の振り返り、他の専門分野の複数の学生と教員とによる多様な視点の交換を行うことで、能動的な学びの姿勢を身に付けることを目的としています。

③ 情報リテラシー科目

情報リテラシー科目は、情報機器を利活用する際に必要となる情報処理の基礎的な知識と技能に加え、インターネットによるコミュニケーション手法や情報化社会に参画するための情報倫理、情報機器によるプレゼンテーション等のスキルを身に付けることを目的としています。

④ 外国語科目

外国語科目には、「英語科目」と、「初修外国語科目」（朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語）があります。初修外国語について詳しくは、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」および「初修外国語履修ガイド」を参照してください。

自分の第 1 言語（母語）を初修外国語科目として履修することはできません。日本語を第 1 言語（母語）としない学生は、特例科目（外国人留学生および日本語を母語としない学生を対象にした日本語科目）を履修し単位を修得した場合、初修外国語の単位として認定されます。

⑤ 健康・スポーツ科学科目

生涯にわたり心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るために必要な知識や方法について、主としてスポーツを中心とした行動を通じて具体的、学術的に修得するとともに、健康科学やスポーツ文化が果たすべき役割について、理論と実践を通し理解を深めることを目的としています。

⑥ 基礎教育科目

それぞれの学問領域の基礎教育の中で、基幹教育として提供することが相応しい自然科学系科目を基礎教育科目として提供しています。学士課程教育において、科学の基本的能力として必要とされる学力と能力を養成するために、1・2年次に「数学」・「物理学」・「化学」・「生物学」・「地学」の基礎教育（講義・演習・実験）を実施します。それぞれの科目では、学士課程において必要な科学的基盤を身に付けるのみでなく、専門教育へもスムーズに接続できる知識・技能の修得を目的としています。

また、「情報」の基礎教育科目として、コンピュータやネットワークの動作原理、大量のデータを効率的に蓄積・検索するためのデータベースと、情報検索のしくみ等の修得を目的としています。

（2）専門科目

専門科目においては、各学部・学科、学域・学類の専門科目に加えて、各学部・学域によっては共通科目を置き、それぞれの学問分野で共通に求められる知識や思考法等の知的な技法の修得等を目指します。専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択の区分は、所属学科等の標準履修課程表を参照してください。

（3）資格科目

教育職員免許状の取得に必要な科目を資格科目といいます。この科目の単位を進級要件や卒業要件の所要単位に含めることはできない場合がありますので注意してください。教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程に関する説明会に必ず出席し、「教職課程の手引」等を熟読してください。

（4）副専攻科目

副専攻のために特別に開設した科目として副専攻科目があります。副専攻科目の履修については、「副専攻ガイド」等を参照してください。

（5）必修、選択および自由科目の区分

科目は必修、選択、自由科目の種類に区別され、各学部・学科等の定める要件を満たして履修する必要があります。

- ・「必修科目」…当該学科等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目
- ・「選択科目」…学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科

目（選択必修科目を含む）

- ・「自由科目」…履修できるが卒業要件に算入しない科目

（6）遠隔授業について

一部授業は、授業支援システム (Moodle) 等によりオンラインで行うことがあります。

（7）集中講義について

週1回の授業ではなく、短期間で授業を行う集中講義を開講することがあります。集中講義の開講日については学生ポータル (UNIPA) により事前に周知します。集中講義の履修登録については、それぞれ前期・後期の履修登録期間中に登録してください。履修登録期間の時点で希望する集中講義の開講日が未定の場合でも、履修希望者は必ず登録してください。

（8）履修に関する相談について

① オフィスアワー

各授業担当教員は、オフィスアワーを設定しています。これは、指定された曜日・時間には、学生が訪問し、履修に関することや授業中の疑問などを解決するための相談ができる時間のことです。大いに活用してください。(オフィスアワーについては、シラバスを参照してください。)

② その他相談窓口について

履修にあたっては、授業科目の内容説明（「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」やシラバス）を参考にし、標準履修課程表を十分に参照するとともに、履修や進路に関し相談等がある場合は、看護学部教務事務担当または担当教員等に相談してください。

（9）他学部・学域履修

他学部・学域で開講されている科目を履修することができる場合があります。卒業要件に含めることができるかどうかなどの詳細は所属学科等の卒業要件を確認してください。また、履修できる科目については大阪公立大学 web サイトに掲載されている「他学部・他学域学生が履修可能な科目一覧」を確認したうえで、履修登録の方法は「履修登録の手引」を参照してください。

（10）科目名称について

科目名称の末尾に数字あるいは英字等の表現がある場合は、以下のルールを表しています。

- ・「〇〇論 1、2～」

科目内容に順序性がある科目群について使用します。ただし、必ずしも1の履修が2の履修の前提条件になっているとは限りません。

- ・「〇〇論 A、B～」

科目内容に順序性がない科目群について使用します。

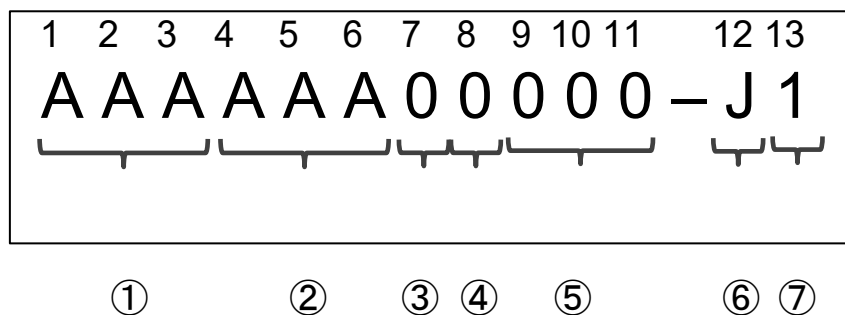
(11) キャンパスをまたぐ授業の履修について

原則として、各学部・学域の主たる学びのキャンパスで開講される科目を履修してください。ただし、再履修科目、資格科目、副専攻科目、他学部・学域（他学科・学類）科目、その他各学部・学域において必要と認められる科目については、主たる学びのキャンパス以外のキャンパスでの履修が許可されることがあります。なお、個人的都合による理由で主たる学びのキャンパス以外の科目を履修することはできません。

看護学部の学生は1年次：中百舌鳥キャンパス、2年次以降は阿倍野キャンパスで学ぶことになります。

7. 科目ナンバリングのルール

科目ナンバリングは、教育課程の体系性を示すために、科目に記号と番号を組みあわせて付与することによって、科目の学問分野、カリキュラム内での位置づけを示す仕組みです。本学では、科目の属性に応じて、アルファベットと数字を組み合わせた13桁で構成された番号を、下記のとおり①開設部局・②学問分野・③科目レベル・④科目区分・⑤連番・⑥使用言語・⑦授業形態として各科目に付番しています。詳細は本学 Web サイトをご覧ください。



8. 履修登録

(1) 履修登録方法

① 学生ポータル（UNIPA）による履修登録

科目を履修するにあたっては、各学期はじめの定める期日まで（4月上旬・9月中旬）に学生ポータル（UNIPA）より履修登録をする必要があります。

履修を考えている科目は全て履修登録期間に登録してください。

② 登録上の諸注意

- ・標準履修課程表にある標準履修年次などによく注意して登録してください。試験で不合格となった科目の再履修は原則として次年度以降となりますが、一部の前期開

講科目については、同一年度の後期に再履修できる場合があります。

- ・同一曜日時限に、2科目以上を重複して履修登録することはできません。
- ・既に単位を修得した科目を再び履修することはできません。
- ・履修登録できる単位数には上限が設定される場合があります。詳しくは「10. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」の項目を確認してください。
- ・卒業・進級予定者が集中講義・単位互換科目等を履修する場合、開講日により卒業・進級判定の際の単位に含むことができない場合があるので、履修登録時に教務担当窓口にご相談してください。

③ 履修登録の確認

履修登録の締め切り後の履修登録状況確認日・抽選結果発表日に、学生ポータル (UNIPA) の「抽選希望登録対象一覧」画面および「学生時間割表」画面上にて抽選科目の抽選結果および履修登録内容の確認が可能になります。履修登録状況確認日・抽選結果発表日に登録内容を点検し、希望どおり正しく登録されているか確認してください。特に、エラーが出ている科目については、履修登録修正期間内に修正してください。

※履修登録について、詳しくは「履修登録の手引」を参照してください。

※履修登録の結果は印刷して卒業まで保管してください。

(2) シラバス

シラバスには、各学部・学域のカリキュラムにおける科目の位置付けや授業の方法、授業概要、到達目標、授業計画、成績評価の方法等が記載されています。履修登録にあたっては、授業時間割やシラバス等を確認し、自身の学習計画を立ててください。

9. 成績評価・試験

(1) 成績評価方法・単位の修得

履修科目の成績は、シラバスで授業科目ごとに示されている方法で各授業担当教員によって評価され、合格した科目に単位が与えられます。成績の評語については「10. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」で記載します。成績は学生ポータル (UNIPA) で確認することができます (定められた期間を除く)。

(2) 定期試験

単位の認定は基本的に試験の成績によって行われますが、試験を行わず、レポートや平常の成績等によって単位認定が行われることもあります。試験を実施する場合は、原則として、授業期間終了後 (試験期間) に実施します。試験の時間割は学生ポータル (UNIPA) を確認してください。定期試験 (筆記・実技・レポート等) を受験するには、当該科目の授業回数の 2/3 以上 (臨地実習については 4/5 以上) を出席していなければなりません。

なお、試験を欠席する場合は、試験前に看護学部教務事務担当に連絡してください。
無断で欠席した場合には、追試験を受験することはできません。

(3) 追試験

試験を欠席した理由が以下の項目に該当する場合には、科目の開設部局（各学部・学域または国際基幹教育機構）によっては追試験を行うことがあります。

- ① 学生が病気または負傷した場合
- ② 学生の親族が死亡した場合（2 親等以内の親族または同居の親族に限る。）
- ③ 公共交通機関の遅延による場合
- ④ 学生が国家試験等を受験する場合
- ⑤ 学生が裁判員裁判へ参加する場合
- ⑥ その他やむを得ないものと認められた場合

追試験の受験を希望する者は、欠席した試験翌日から起算し7日以内（休日含む）に信憑書類（診断書の場合、欠席した試験実施日の日付のもの）を添えて「追試験願」を看護学部教務事務担当に提出する必要があります。

試験欠席の理由が正当と認められた場合に限り、追試験を受けることができます。正当な理由がなく、また、無断で欠席した場合には、追試験を受験することはできません。

ただし、追試験が受けられなかった場合と不合格の場合は翌年度以降の再履修となります。

(4) 再試験

試験の成績が不合格となった科目については、再試験を行うことがあります。

ただし、再試験が受けられなかった場合と不合格の場合は翌年度以降の再履修となります。

（※再試験は、前期では8月下旬頃に、後期では3月上旬頃に実施の予定。）

なお、再試験の結果、合格した場合の成績評価はC評価（60点）とします。

(5) 追実習

担当教員により追実習の理由が正当と認められ、かつ、実習施設の受入れが整えば、追実習を行うことがあります。担当教員に必要書類を確認し、提出してください。

（注意）

試験に合格しなかった者又は試験を受けなかった者が、その授業科目の単位を修得しようとするときは改めて履修登録をして、再履修しなければなりません。

10. 成績評語と GPA 制度・CAP 制

(1) 成績評語と GPA 制度

履修科目の成績は、下表の基準にもとづき評価され、発表は評語により行います。履修登録した各科目の成績に GP (Grade Point) を割り当てて、その平均を取ったものを GPA (Grade Point Average) といいます。学生の達成度を客観的に評価するための指標として学期ごとに算出され、ただ卒業するために必要な単位を修得するのではなく、学生が主体的にかつ充実した学習効果をあげることを目的としています。GPA は学期ごとに、以下の数式により算出されます。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{当該期で得た科目の GP 値} \times \text{その科目の単位数の合計})}{\text{※当該期に履修登録した総単位数}}$$

※GPA 対象科目のみ

評語	基準	100 点方式による素点等	GP
AA	授業目標を大きく上回って達成できている	100 点以下 90 点以上	4
A	授業目標を上回って達成できている	90 点未満 80 点以上	3
B	授業目標を達成できている	80 点未満 70 点以上	2
C	最低限の授業目標を達成できている	70 点未満 60 点以上	1
F	最低限の授業目標を達成できていない	60 点未満および成績評価基準にもとづく評価をしない科目で不合格となった科目	0
T (取消)		試験等での不正行為	0
N (認定)		単位認定された科目	対象外
P (合格)		成績評価基準にもとづく評価をしない科目で合格となった科目	対象外

GPA の対象となる科目は、原則として履修登録した全ての科目です。ただし、卒業の所要単位に算入されない科目（資格科目等の自由科目）、上表の単位認定された科目、成績評価基準にもとづく評価をしない科目で合格となった科目は GPA から除かれます。また、成績証明書には、発行した時点での通算 GPA が記載されます。

通算 GPA は、以下の数式により算出されます。

$$\text{通算 GPA} = \frac{(\text{各学期で得た科目の GP 値} \times \text{その単位数の合計})}{\text{各学期で履修登録した単位数の合計}}$$

※GPA 対象科目のみ

なお、履修登録の締め切り以降は、原則として変更はできません。ただし、以下に示す条件により履修を続けることが困難な場合、特別に履修中止を認める場合があります。

- ① 実際の授業の内容が公開されている『シラバス』と本質的に異なっている場合
- ② 授業についていけないだけの知識不足が発覚した場合

※手続きの時期や方法など詳細については「履修登録の手引」を確認してください。

(2) CAP 制

学期内で履修する科目について予習・復習の時間を確保するために、各年度・各学期に履修登録できる総単位数には、上限が設けられています。このことを CAP 制（キャップ制）といいます。

大学における 1 単位は授業時間外の学習時間を含めた 45 時間の学習を要する教育内容をもって構成されており、授業時間外の学習時間を確保するため、本学では履修登録の上限を年間 50 単位未満としています（半期の上限 25 単位以下）。

通年科目の単位数を計算するときは、通年科目の単位数を開講学期数で割ってそれぞれの学期に振り分けされます。

なお、GPA3.0 以上の成績優秀者は、次期の CAP 上限が 4 単位引き上げられます。

原則として、卒業の所要単位に算入されない科目（資格科目等の自由科目）は CAP 制の対象外となります。卒業の所要単位に算入される科目の中で、例外的に CAP 制対象外となる科目もあります。詳しくは標準履修課程表を確認してください。

1.1. 既修得単位等の認定

(1) 既修得単位の認定（再入学の場合を除く）

入学する前に大学、短期大学（外国の大学等を含む）または大学以外の教育施設において科目を履修し、修得した単位については、学部・学域の履修課程に照らして有益と認められる場合に限り、合計 60 単位を超えない範囲で本学において修得したものとして認定されることがあります。該当者は、入学前の指定する日（3 月下旬）までに看護学部教務事務担当へ申し出てください。

なお、他大学との単位互換制度により修得した単位数と合わせて 60 単位を超えることはできません。

(2) 外部試験等による外国語の単位認定

TOEIC 等の外部試験において一定レベル以上のスコアや資格を有している場合、英語科目の単位を認定する制度があります。詳細については、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」を参照してください。また、申請に使用できる外部試験のスコアの有効期間は1年間です。なお、認定された科目は履修することはできないので注意してください。

12. 定期試験受験心得

- (1) 試験開始までに入室し、試験監督者の指示に従ってください。
- (2) あらかじめ履修登録した科目のみ、受験することができます。
- (3) 受験に際しては、必ず学生証を持参し、着席した机の上に置いてください。学生証を忘れた場合は、事前に所属学部・学域教務担当窓口で仮受験票の交付を受けてください。これを怠った場合は、受験を許可しないことがあります。
- (4) 試験を開始して30分経過後の遅刻者は受験を許可されません。
- (5) 30分を経過しなければ退出は許されません。ただし、科目担当教員の判断により、試験開始30分経過後でも途中退出を認めないことがあります。
- (6) 机には、持ち込みを許可されたもの（教科書、ノートなど）がある場合を除いて、学生証、筆記具以外を置いてはいけません。
- (7) 携帯電話などの電子機器は、特に許可された場合を除き、電源を切り、かばんの中に入れてください。また、音を発する物（たとえば時計のアラーム）などで、他人に迷惑をかけてはいけません。
- (8) 受験中、学生相互間の物品（筆記具を含む）の貸借は一切認められません。また、私語をしてはいけません。
- (9) 配付された答案用紙には、所定の箇所に、学籍番号、氏名などを必ず記入してください。
- (10) 答案用紙は試験監督者から配付されたものを使用し、書き損じた答案用紙も全て提出してください。配付されたものは、許可されたもの以外は持ち帰ってはいけません。
- (11) 試験監督者が不正行為を認めた場合には、受験の停止、退室などを命ずることがあり、受験者はこれに従わなければいけません。
- (12) 対面試験と同様に遠隔試験についても一切の不正行為を禁じます。
- (13) レポート試験について、次の行為に対して不正行為とみなします。
 - ① 他者のレポートの一部または全部を書き写す行為
 - ② 他者にレポート作成を依頼する行為
 - ③ 他者に依頼されて本人の代わりにレポートを作成する行為
 - ④ レポートのデータや資料等を捏造または改ざんする行為
 - ⑤ その他、上記の不正行為に準ずる行為

- (14) 試験（遠隔試験、レポート試験も含む）で不正行為を行った学生に対しては、原則としてその試験実施日が属する学期に履修中の科目の成績を全て無効とします。
- (15) 不正行為を行った学生は、学則に基づいた懲戒処分（訓告、停学、退学）の対象になる事もあります。
- (16) いかなる試験においても、自己または他人のために不正行為をしてはいけません。

13. 成績評価についての異議申立

学生は、その学期の成績評価について、次のような場合に異議を申し立てることができます。

- (1) 成績の誤記入等、担当教員の誤りであると思われるもの
- (2) シラバス等により周知している成績評価の方法に照らして、評価結果等について疑義があるもの

異議申立を行う場合、学生ポータル（UNIPA）に掲載する申立期間内に、各科目の開設部局（看護学部教務事務担当または基幹教育担当）へ申し出てください。

なお、これは成績評価に納得がいかない者が、問い合わせ、また異議申立を行う制度ではないので、注意してください。

14. 休講・欠席について

(1) 気象条件の悪化、交通機関の運休等による授業の休講および定期試験の延期措置について

① 気象条件の悪化による授業の休講について

キャンパス所在地を含む地域に暴風（暴風雪）警報、または各種の特別警報が発令されているときは原則として当該キャンパスでの全ての授業を休講とします（定期試験を含む）。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部または一部の授業を行います。

授業中または試験中に、キャンパス所在地を含む地域に暴風（暴風雪）警報、または各種の特別警報が発令されているときは、原則として、実施中の授業・試験についてはそのまま行い、その次の時限から当該キャンパスでの授業は休講とします。

また、学外実習などは、前記事項を踏まえ担当教員の指示により授業を行わないことがあります。（実習施設の所在地を含む地域に暴風（暴風雪）警報、または各種の特別警報が発令されたときは実習を行いません）

なお、気象条件の悪化による授業の休講は、対面授業においてのみ適用されるものであり、遠隔授業においてはこの限りではありません。

② 交通機関の運休による授業の休講について

次の交通機関のいずれかが運休（事故等による一時的な運行停止を除く）の授業は原則として休講とします（定期試験を含む）。ただし、別表のとおり運行再開の時刻により、全部または一部の授業を行います。

また、交通機関の計画運休や運休見通し情報が発表された場合は、対象路線や運休期間等の発表内容に基づき、事前に休講とする場合があります。

なお、交通機関の運休による授業の休講は、対面授業においてのみ適用されるものであり、遠隔授業においてはこの限りではありません。

● 杉本キャンパス

- ・ JR 阪和線全線
- ・ JR 大阪環状線全線および Osaka Metro 御堂筋線全線が同時

● 中百舌鳥キャンパス

- ・ 南海高野線全線
- ・ JR 阪和線全線および南海本線全線が同時
- ・ JR 大阪環状線全線および Osaka Metro 御堂筋線全線が同時

● 阿倍野キャンパス

- ・ JR 阪和線全線と南海本線全線が同時
- ・ JR 大阪環状線全線と Osaka Metro 全線が同時
- ・ JR 大和路線全線と近鉄南大阪線全線が同時
- ・ JR 学研都市線全線と京阪本線全線が同時
- ・ JR 神戸線・京都線全線と阪神本線・阪急神戸線・京都本線全線が同時

● 羽曳野キャンパス

- ・ 近鉄南大阪線全線
- ・ 近鉄バスの藤井寺駅前～府立医療センター間と古市駅前～大阪府立大学羽曳野キャンパス・府立医療センター間の両方が同時
- ・ JR 大阪環状線全線と Osaka Metro 全線が同時

● りんくうキャンパス

- ・ JR 阪和線全線と南海本線全線が同時
- ・ JR 大阪環状線全線と Osaka Metro 全線が同時

● 梅田サテライト

- ・ JR 大阪環状線全線と Osaka Metro 全線が同時

③ 地震発生時の取扱い

キャンパス所在地を含む地域で震度5強以上の地震が観測された場合、該当するキャンパスでの当日の授業は休講とします。翌日以降は災害状況等を考慮の上、休講措置の有無を判断します。なお、地震が大阪府内当該地域以外で発生した場合または震度5強未満の場合は、公共交通機関の運行状況に応じて対応することとします。

また、地震を起因とする自然災害等により、避難に関する情報が発表された場合に

についても状況により休講等の対応を行うことがあります。

(注意事項) ①～③による休講措置がないにもかかわらず、外的要因により登下校が困難になる場合の措置については、⑥を参照してください。また、上記にかかわらず、自らの身の安全を最優先に行動してください。

④ 遠隔授業（同時双方向型に限る）において授業支援システム（Moodle）が停止した場合の休講について

授業支援システムが停止した場合は同時双方向型の授業に限り、原則として休講とします（授業担当教員から履修者へ個別の連絡がある場合は除きます）。ただし、別表のとおり授業支援システムの復旧の時刻により、全部または一部の授業を行います。また、遠隔授業（オンデマンド型）については休講の措置を行いません。

(別表)

● 杉本、中百舌鳥、阿倍野、羽曳野、りんくうキャンパス

運行再開・警報解除 授業支援システムの復旧の時刻	休講となる授業	実施する授業
午前 7 時以前	－	全授業
午前 10 時以前	午前開始の授業	午後開始の授業
午前 10 時を過ぎても解除されない 場合	全授業	－

● 梅田サテライト（月～金）

運行再開・警報解除 授業支援システムの復旧の時刻	休講となる授業	実施する授業
午後 3 時以前	－	全授業
午後 3 時を過ぎても解除されない 場合	全授業	－

● 梅田サテライト（土）

運行再開・警報解除 授業支援システムの復旧の時刻	休講となる授業	実施する授業
午前 7 時以前	－	全授業
午前 10 時以前	午前開始の授業	午後開始の授業
午前 10 時を過ぎても解除されない 場合	全授業	－

⑤ その他注意事項

対面授業をオンライン中継する授業（ハイフレックス授業等）の取扱いについて

は、対面授業を行っているキャンパスの授業が休講される場合にも同様に休講とします。

上記に挙げる理由以外にも、自然災害等によりキャンパスを含む所在地に避難に関する情報の発表や、Jアラート（全国瞬時警報システム）が発令された場合、学生の安全確保のために休講措置をとる場合があります。

なお、午前9時以降における授業の実施については、上記の取扱いを原則としつつ、状況に即して教育推進本部長が例外の判断をする場合があります。その際には、学生ポータル（UNIPA）により周知します。

⑥ 登下校が困難な場合の救済措置

上記により休講措置をとらない場合であっても、学生の居住地または通学経路にある地域で、次のいずれかに該当する事態が発生したことにより学生が授業等に出席できない場合（帰宅困難となる恐れがある場合含む）、後日、授業担当者に欠席届を提出し、配慮を申し出てください。

1. 居住地を含む地域における震度5強以上の地震が観測された場合
2. 居住地を含む地域における避難指示の発令
3. 居住地を含む地域における気象警報（暴風（暴風雪）警報、または特別警報）等の発表
4. その他災害等（居住地を含む地域または通学経路における上述の3事由に準ずる災害等）の発生
5. 通学経路上の交通機関の運休または大幅な遅延の発生

（2）授業欠席時の取扱いについて

授業を欠席する場合、欠席理由（病気、各種実習、介護等体験、クラブ活動、忌引等）の如何を問わず原則として「欠席届」を授業担当教員に提出してください。授業科目の成績評価等の配慮については、授業担当教員の裁量によります。「欠席届」は、学生ポータル（UNIPA）＞学生Navi＞「授業・履修」からダウンロードできます。

また、「9. 成績評価・試験」の「（3）追試験」、「（4）再試験」に示す理由によって定期試験を欠席する場合は追試験を行うことがありますので、各科目の開設部局（看護学部教務事務担当または基幹教育担当）に相談してください。

なお、以下の場合の特例として通常と対応が異なります。

- 学校感染症に指定されている感染症（季節性インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症等）に罹患した場合、出席停止となり、速やかに大学に報告が必要となります。授業支援システム（Moodle）の「学校感染症罹患時報告」を確認し、報告してください。
- 裁判員制度に伴う裁判に出席する場合

裁判員制度により裁判員（候補者）に選出され、裁判所に出頭するために授業を欠席しなければならない場合は、「欠席届」に加えて、裁判所からの呼出状(写)等を授業担当教員に提出することで、成績評価等についての配慮の対象となります。配慮の内容については、授業担当教員の裁量によります。

15. 副専攻

副専攻とは、全学的な協力体制の下で、複数の専門分野にまたがる横断的な科目の配置を行い、全学の学生が目指すべき進路や興味関心に応じて自由に選択・履修できる教育課程の事を指します。

本学で開設されている副専攻については、「副専攻ガイド」を参照してください。ただし、副専攻のために修得した単位については、進級要件および卒業要件に含まれないことがあるので注意してください。

16. 他大学との単位互換制度・単位互換科目

- (1) 他大学の授業の履修を希望する学生は、大学コンソーシアム大阪等との単位互換協定に基づいて、他大学の授業を履修することができます。毎年度教育推進課から募集の案内があります。詳細は各コンソーシアム等の Web サイトを確認してください。
- (2) 他大学で修得した科目および単位は、本学で履修し、単位を修得したものとみなし、単位が認定される場合があります。
- (3) 本学に在学中に外国の大学との協議等に基づき、当該大学の科目を履修し、単位を修得した場合は、教授会等の承認を経て本学において修得したものとみなし、単位が認定される場合があります。

なお、他大学との単位互換制度により認定される単位の上限は 60 単位までです。また、入学前の既修得単位制度により修得した単位数と合わせて 60 単位を超えることはできません。

17. 転学部（学域）・転学科（学類）等

在学中に特別の事情で学部・学科等を変更したい人のために、転学部・転学科等という制度があります。ただし、転学部・転学科等を認めていない学部もあります。

なお、転学部・転学科等を希望する学生を受け入れる学部・学科等の事情（定員超過など）により、募集しない場合があります。また、受け入れ先の学部・学科等が定める要件（成績・修得単位数など）を満たす必要があります。転学部等の募集については、毎年 9 月に学生ポータル（UNIPA）にて掲示します。詳細については、看護学

部教務事務担当に問い合わせてください。

18. 前期終了時の卒業

本学に4年以上在学し、学年の前期終了時に卒業要件を満たし、あらかじめ定められた期日までに卒業を申し出た者については、教授会の議を経て、前期終了時に卒業が認められます。

19. 学籍について

(1) 休学

病気その他やむを得ない理由で引き続き2ヶ月以上修学できない場合は、「休学願」を提出することにより、休学が認められることがあります。なお、「休学願」の提出は休学を開始する日の前日（前期からの休学の場合は3月31日、後期からの休学の場合は9月23日）までに行わなければなりません。また、休学を延長する場合も、上記と同様の手続きをおこなう必要があります。

休学期間は、通算して2年を超えることができません。休学期間は在学年数に算入しません。

(2) 復学

休学期間中にその事由が消滅した場合は、申し出て復学することができます。復学するためにはその学期の授業料を納入しなければなりません。

(3) 留学

留学を願い出る場合は、担当教員等による指導助言を受けた上で、留学を開始する日の前日までに「留学願」を提出しなければなりません。

(4) 退学

退学を希望する場合は、前期をもって退学する場合は前期末、後期をもって退学する場合は後期末までに「退学願」を提出しなければなりません。学期開始後に提出した場合は、その学期の授業料を納入しなければなりません。

(5) 除籍

指定された期日までに授業料を納入しなかった場合、あるいは在学年限内に所定の単位を修得できなかった場合で「退学願」の提出のないとき等は除籍となります。

(6) 再入学

退学または除籍された者が、再入学を願い出た場合には、教授会の選考を経て再入学が許可されることがあります。ただし、再入学の願い出は、退学または除籍の日から2年以内に限ります。

20. 修学上の配慮・支援について

疾病・障がいおよび社会的障壁を有する学生で個別具体的な修学上の配慮・支援を必要とする場合は、アクセシビリティセンターまたは各学部・学域アクセシビリティ支援委員に申し出てください。

21. 教育学習支援基盤「ていら・みす」での学修記録の記入

学ぶ力（学習自己管理能力）を高めること、すなわち、

- ・目標を意識しながら、学ぶこと
- ・自分自身の学びを見つめる（ふり返る）目を養うこと
- ・学びについて得た気づきを、次の学修に生かすこと

を主な目的として、半期ごとに、教育学習支援基盤「ていら・みす」において、ポートフォリオ（学修記録）への記入を行います。「ていら・みす」へは、学生ポータル（UNIPA）からアクセスしてください。

22. 「実践看護科学コース」と「先進ケア科学コース」のコース選択方法

看護学科では、2年次後期の時点から、共創的看護を基本コンセプトとした「実践看護科学コース」、ケア科学の創造を追及し研究コンピテンシーの開発を基本コンセプトとした「先進ケア科学コース」のいずれか1つのコースで、各コースにおいて指定する選択科目を履修することになります。各コースで指定する選択科目については別紙「履修課程表」を参照してください。

（1）コースが決定するまでの流れ

コースの決定は2年次前期の終了時とします。コースの概要とコースが決定するまでの流れについては、入学時、1年次後期及び2年次前期開始時に行う履修説明会で説明します。コースの決定は、2年次前期に実施するコース選択希望調査を基に行い、学生への通知は2年次後期開始時までに行います。ただし、各コースには定員設定があるため、定員を超える希望者がいる場合は、2年次前期終了時までの通算 GPA を用いて調整を行うことがあります。

＜各コースの定員（目安）＞

実践看護科学コース 110 名

先進ケア科学コース 50 名

なお、コース決定の結果については、掲示等により通知します。希望したコースを選択できなかった学生は、必要に応じて、今後の履修も含め学生アドバイザー教員と面談を行います。

(2) 2 年次後期からの授業科目の履修

2 年次後期からの履修は、原則として各コースにおいて指定される選択科目を履修しなければなりません。他方のコースが指定する選択科目を履修することも可能です。ただし、他方のコースが指定する選択科目を履修し修得した単位については、卒業要件に算入されません。

なお、他方のコースが指定する選択科目の履修を希望する者は、事前に科目担当教員へ相談してください。

2 3. 実習科目の履修要件

<実践看護科学コース>

- ① 基礎看護学実習を履修するには、看護学概論、早期体験実習、生活行動ケア論、クリニカルスキル演習の単位を修得していなければなりません。
- ② 3 年次以降の実習科目を履修するには、基礎看護学実習を修得していなければなりません。
- ③ 3 年次後期からの実習科目を履修するには、それまでの未修得必修科目が 2 単位以下であり、かつ、基盤看護学科目、共創科目、実践看護科学科目の単位を修得していなければなりません。
- ④ 総合実習を履修するには、3 年次後期から 4 年次前期に開講される実習の単位が修得見込みでなければなりません。

<先進ケア科学コース>

- ① 生活行動ケア基本実習を履修するには、看護学概論、早期体験実習、生活行動ケア論、クリニカルスキル演習の単位を修得していなければなりません。
- ② 3 年次以降の実習科目を履修するには、生活行動ケア基本実習の科目を修得していなければなりません。
- ③ 3 年次以降の実習科目を履修するには、3 年次までの未修得必修科目が 2 単位以下であり、かつ、各実習科目に関連する専門科目の単位が修得見込みでなければなりません。
- ④ ケアシステム科学実習を履修するには、上記の①②③の履修要件を満たし、3 年次前期から 4 年次前期に開講される実習の単位が修得見込みでなければなりません。

(注意)

毎年行われる大学の定期健康診断を受けていること、及び看護学部において指定した結核、B 型肝炎、小児感染症、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等の予防対策を行っていること、並びに実習において必要な保険に加入していることを実習参加要件とします。

24. 卒業資格（卒業要件）

（1）修業年限

修業年限とは大学を卒業するために必要な在学年数を指し、本学看護学部は4年です。卒業するには4年以上在学しなければなりません、8年を超えて在学することはできません。なお、休学期間は在学期間に算入されません。

（2）卒業所要単位一覧

科目区分／学科	看護学科	
総合教養科目	8単位	他10単位を選択
初年次教育科目	2単位	
情報リテラシー科目	2単位	
外国語科目	8単位	
健康・スポーツ科学科目	3単位	
小計	33単位以上	
専門科目	96単位以上	
合計	129単位以上	

25. 基幹教育科目履修課程

科目区分			科目名	配 当 年 次 及 び 単 位 数 < ○ 印 必 修 >								週 時 間 数	卒業要件				
				第1年次		第2年次		第3年次		第4年次							
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
	総合教養科目		(授 業 科 目 ガ イ ド 参 照)											8単位	B	A 以外かつBの8単位を超えて修得した 基幹教育科目10単位以上 (基礎教育科目を除く)	
基 幹 教 育 科 目	初年次教育科目		初年次ゼミナール		②								2	2単位	A		
	情報リテラシー科目		情報リテラシー		②								2	2単位			
	外 国 語 科 目	外(英 語 科 目)	University English1A		①								2	6単位			
			University English1B			①							2				
			University English2A		①								2				
			University English2B			①							2				
			University English3A				①						2				
			University English3B				①						2				
		外国語 科目 (初修外 科目)	(独 ・ 仏 ・ 中 ・ 露 ・ 朝) 入 門 1		①									2			2単位
			(独 ・ 仏 ・ 中 ・ 露 ・ 朝) 入 門 2			①								2			
			(その他授業科目ガイド参照)														
	健康・スポーツ 科学科目		健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 概 論		(2)	(2)							2	2単位			
			健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 実 習		(1)	(1)								2			1単位
	計																33単位

※ (独・仏・中・露・朝) は, 独:ドイツ語 仏:フランス語 中:中国語 露:ロシア語 朝:朝鮮語
※ 英語以外の外国語科目(独・仏・中・露・朝)については, 当該年度に1言語しか履修できません。
※ 健康・スポーツ科学科目の各科目は, 学科ごとに指定される前期又は後期のクラスを受講してください。

26. 標準履修課程表

凡例:●印は、必修科目　○印は、選択科目　◎印は、コース別に指定する選択科目

区 分	授業科目	配当年次	単位数		1単位 当たりの 時間数	実践看護科学コース								先進ケア科学コース								履修方法 及び 卒業要件		
						配当年次								配当年次										
						1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次				
			前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
基幹教育科目	(総合教育科目)			8		○	○								○	○							選択 8単位	左記の他選択 10単位
	(初年次教育科目)		2			●									●								必修 2単位	
	(情報リテラシー科目)		2			●									●								必修 2単位	
	(外国語科目)		8			●	●	●							●	●	●						必修 8単位	
	(健康スポーツ科目)		3			●	●								●	●							必修 3単位	
専門科目	健康基礎科学	解剖生理学1	1前	2		15	●								●								必修 30単位 選択 66単位以上	
		解剖生理学2	1後	2		30		●								●								
		病理学	2前	1		15			●								●							
		薬理学	2前	1		30			●								●							
		生化学	2前	1		30			●								●							
		微生物学	2前	1		30			●								●							
		栄養学総論	2後		1	15				◎														
		疾病・病態学A（慢性期）	2前	1		30			●								●							
		疾病・病態学B（急性期）	2前	1		30			●								●							
		疾病・病態学C（母性）	2後	1		15				●								●						
		疾病・病態学D（小児）	2後	1		15				●								●						
		疾病・病態学E（精神）	2後	1		15				●								●						
		感染管理論	2後		1	15												◎						
		基礎遺伝学	2後		1	30												◎						
		ゲノム医療ケア科学	3前		1	15													◎					
		生命倫理学	3前		2	15					◎													
		健康と疫学	2後		1	15				◎														
		公衆衛生学	2前	1		30			●								●							
		臨床統計学	2前	1		30			●								●							
		医療と社会福祉学	3前		1	15					◎													
		セクシュアルヘルス支援	3前		1	15					◎													
	基盤看護学	看護学概論	1前	2		15	●								●									
		早期体験実習	1後	1		45		●								●								
		看護倫理論	1後	1		15		●								●								
		生活行動ケア論	2前	1		15			●								●							
		クリニカルスキル演習	2前	2		30			●								●							
		成人看護学基盤論	2前	2		15			●								●							
		老年看護学基盤論	2前	1		15			●								●							
		ウィメンズヘルス看護学基盤論	2後	1		15				●								●						
		在宅看護学基盤論	2前	1		15			●								●							
		地域看護学基盤論	2前	1		15			●								●							
		小児看護学基盤論	2後	1		15				●								●						
		精神看護学基盤論	2前	1		15			●								●							
	共創科目	コミュニケーション論	3前		1	30					◎													
		コラボレーション論	3前		1	15					◎													
		トランジショナルケア論	2後		1	15				◎														
		トランジショナルケア演習	3前		1	30					◎													
	実践看護科学	看護過程と臨床判断	2後		1	30				◎														
		基礎看護学実習	2後		2	45				◎														
		日常生活援助技術	2後		2	30				◎														
		ヘルスアセスメントとシミュレーション	2後		1	30				◎														
		病態看護論	2後		1	15				◎														
		急性看護学支援論	2後		1	15				◎														
		急性看護学支援論演習	3前		1	30					◎													
		急性看護学実習	3後－4前		3	45						◎												
		慢性看護学支援論	2後		1	15				◎														
		慢性看護学支援論演習	3前		1	30					◎													
		慢性看護学実習	3後－4前		3	45						◎												
		老年看護学支援論	2後		1	15				◎														
		老年看護学支援論演習	3前		1	30					◎													
		老年看護学実習	3後－4前		3	45						◎												
		精神看護学支援論	2後		1	15				◎														
		精神看護学支援論演習	3前		1	30					◎													
		精神看護学実習	3後－4前		2	45						◎												
		在宅看護学支援論	2後		1	15				◎														
		在宅看護学支援論演習	3前		2	30					◎													
		在宅看護学実習	3後－4前		2	45						◎												

凡例：●印は、必修科目　○印は、選択科目　◎印は、コース別に指定する選択科目

区 分	授業科目	配当年次	単位数	1単位当たりの時間数	実践看護科学コース								先進ケア科学コース								履修方法及び卒業要件
					配当年次								配当年次								
					1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目	実践看護科学	地域看護学支援論	2後	1	15				◎												必修 30単位 選択 66単位以上
		地域看護学実習	3後	1	45						◎										
		家族看護論	3前	2	15					◎											
		母性看護学支援論	2後	1	15				◎												
		母性看護学支援論演習	3前	1	30					◎											
		母性看護学実習	3後－4前	2	45							◎									
		小児看護学支援論	2後	1	15				◎												
		小児看護学支援論演習	3前	1	30					◎											
		小児看護学実習	3後－4前	2	45							◎									
		看護研究方法論	3前	1	15					◎											
		総合研究1	4前	1	15							◎									
		総合研究2	4後	2	30								◎								
		総合実習	4前	2	45							◎									
	ケアデータ科学	ケアと健康福祉工学	2後	1	15												◎				
		ケアと行動科学	2後	1	15												◎				
		ヘルスケアサービス経営論	3前	1	15													◎			
		情報ケア科学	3前	1	15													◎			
		ケアと人工知能	2後	1	15												◎				
		異文化ケア科学	3前	1	15													◎			
		高齢者ケアと経済	2後	1	15												◎				
		ケアと意思決定	3前	1	15													◎			
		ケア研究方法論	2後	1	30												◎				
		研究セミナー1	3前	1	30													◎			
		研究セミナー2	3後	1	30														◎		
		研究セミナー3	4前	1	30														◎		
		研究セミナー4	4後	1	30															◎	
	生体行動ケア科学	ケア・シンキングプロセス	2後	1	15												◎				
		フィジカルアセスメント	2後	1	15												◎				
		生活行動ケア基本演習	2後	2	30												◎				
		生活行動ケア基本実習	2後	2	45												◎				
		臨床健康危機看護学演習	3前	2	15													◎			
		臨床健康危機看護学実習	3前	3	45													◎			
		高齢者ウェルネス実習	2後	1	45												◎				
		生活行動ケア応用演習	4前	1	15														◎		
		生活行動ケア応用実習	4前	1	45														◎		
		ウィメンズヘルスケア活動論	3前	1	15													◎			
		周産期ヘルスケア演習	3後	2	15														◎		
		ウィメンズヘルスケア実習	3後	2	45														◎		
		精神行動看護学実践論	3前	1	15													◎			
		精神行動看護学演習	3後	2	15														◎		
		精神行動看護学実習	3後	2	45														◎		
	ケアシステム科学	地域包括ケア論	3前	2	15													◎			
		訪問看護過程演習	4前	1	15															◎	
		訪問看護過程実習	4前	1	45															◎	
		地域包括ケアシステム演習	4後	1	15															◎	
		地域包括ケア実習	4後	1	45															◎	
		臨床療養支援看護学演習	3前	2	15													◎			
		臨床療養支援看護学実習	3前	3	45													◎			
		高齢者ケアシステム論	3後	2	15														◎		
		高齢者ケアシステム実習	3後	2	45														◎		
		子ども・発達ケアシステム論	3前	1	15													◎			
		子ども・家族看護過程演習	3後	2	15														◎		
		子ども・家族看護過程実習	3後	2	45														◎		
		グローバルケアコミュニケーション	3前	1	30													◎			
	ケアシステム科学実習	4前	2	45															◎		
キャリア発展科目	チーム医療A	2後	1	15				○								◎				・実践看護科学 コースは、○印の 中から2単位以上 ・先進ケア科学 コースは、○印の 中から2単位以上	
	チーム医療B	4後	1	15															○		
	看護管理学	3前	1	15					◎								○				
	国際看護論	3前	1	15					◎								○				
	看護教育学	4前	1	15							◎							○			
	災害看護論	4後	1	15														○			
	グローバル看護演習	4前・後	2	30														○	○		
	看護情報学	4前	1	15								○						○			
	がん看護学	3前	1	15					○								○				
	感染看護学	3前	1	15					○								○				
	緩和ケア学	4前	1	15							◎							○			
	リスクマネジメント	4後	1	15															○		
	実践訪問看護演習	4後	2	15															○		
	新生児クリティカルケア	4後	1	15															○		
	科 資 料 目 格	科 教 目 職	☆学校保健	2後	2	30				○								○			
☆養護概説			3前	2	30					○								○			

(注) ☆印は、卒業要件の選択科目の単位数には含まれません。

27. 履修モデル

(1) 看護師履修モデル

実践看護科学コース

区分	1年次				2年次				3年次				4年次				単位 合計
	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位	
基幹 教育 科目	初年次ゼミナール	●		2	外国語科目			2									3 3 単位 以上 (必修 2 3 単位 + 選択 1 0 単位)
	情報リテラシー	●		2	University English 3A	●		(1)									
	総合教養科目 その他	○	○	8	University English 3B	●		(1)									
	外国語科目			6													
	University English 1A	●		(1)													
	University English 1B	●		(1)													
	University English 2A		●	(1)													
	University English 2B		●	(1)													
	初修外国語1	●		(1)													
	初修外国語2		●	(1)													
専 門 科 目	健康・スポーツ科学科目			3													必修 科目 9 4 単位 + 選択 科目 2 単位 以上
	健康・スポーツ科学概論		●	(2)													
	健康・スポーツ科学実習	●		(1)													
	その他選択科目			10													
	19科目			31	2科目			2									
	解剖生理学1	●		2	病理学	●		1	生命倫理学	●		2	総合研究1	●		1	
	看護学概論	●		2	薬理学	●		1	医療と社会福祉学	●		1	総合実習	●		2	
					生化学	●		1	セクシュアルヘルス支援	●		1	看護教育学	●		1	
	解剖生理学2		●	2	微生物学	●		1	コミュニケーション論	●		1	緩和ケア学	●		1	
	早期体験実習		●	1	疾病・病態学A(慢性期)	●		1	コラボレーション論	●		1					
	看護倫理論		●	1	疾病・病態学B(急性期)	●		1	トランジショナルケア演習	●		1	総合研究2		●	2	3年後期から4年前期の1年間
					公衆衛生学	●		1	急性看護学支援論演習	●		1	災害看護論		●	1	
					臨床統計学	●		1	慢性看護学支援論演習	●		1	チーム医療B		○	1	
					生活行動ケア論	●		1	老年看護学支援論演習	●		1					
					クリニカルスキル演習	●		2	精神看護学支援論演習	●		1					
					成人看護学基盤論	●		2	在宅看護学支援論演習	●		2					
					老年看護学基盤論	●		1	家族看護論	●		2					
					在宅看護学基盤論	●		1	母性看護学支援論演習	●		1					
					地域看護学基盤論	●		1	小児看護学支援論演習	●		1					
					精神看護学基盤論	●		1	看護研究方法論	●		1					
					健康と疫学		●	1	看護管理学	●		1					
					疾病・病態学C(母性)		●	1	国際看護論	●		1					
					疾病・病態学D(小児)		●	1	がん看護学	○		1					
					疾病・病態学E(精神)		●	1	急性看護学実習		●	3					
					栄養学総論		●	1	慢性看護学実習		●	3					
					ウィメンズヘルス看護学基盤論		●	1	老年看護学実習		●	3					
					小児看護学基盤論		●	1	精神看護学実習		●	2					
					トランジショナルケア論		●	1	在宅看護学実習		●	2					
					看護過程と臨床判断		●	1	母性看護学実習		●	2					
					基礎看護学実習		●	2	小児看護学実習		●	2					
					日常生活援助技術		●	2	地域看護学実習		●	1					
					ヘルスアセスメントとシミュレーション		●	1									
					病態看護論		●	1									
					急性看護学支援論		●	1									
					慢性看護学支援論		●	1									
					老年看護学支援論		●	1									
					精神看護学支援論		●	1									
					在宅看護学支援論		●	1									
					地域看護学支援論		●	1									
					母性看護学支援論		●	1									
					小児看護学支援論		●	1									
	5科目			8	37科目			40	27科目			39	12科目			9	
	24科目			39	39科目			42	27科目			39	12科目			9	
	計																

(注) ●印は、必修科目を示す。
○印は、選択科目を示す。

先進ケア科学コース

区分	1年次				2年次				3年次				4年次				単位 合計
	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位	
基幹教育科目	初年次ゼミナール	●		2	外国語科目			2									33 単位以上（必修23単位＋選択10単位）
	情報リテラシー	●		2	University English 3A	●		(1)									
	総合教養科目	○	○	8	University English 3B	●		(1)									
	その他																
	外国語科目			6													
	University English 1A	●		(1)													
	University English 1B	●		(1)													
	University English 2A		●	(1)													
	University English 2B		●	(1)													
	初修外国語1	●		(1)													
	初修外国語2		●	(1)													
	健康・スポーツ科学科目			3													
	健康・スポーツ科学概論		●	(2)													
	健康・スポーツ科学実習	●		(1)													
	その他選択科目			10													
	19科目			31	2科目			2									33
専門科目	解剖生理学1	●		2	病理学	●		1	ゲノム医療ケア科学	●		1	研究セミナー3	●		1	必修 単位94単位＋ 選択（キャリア 発展科目）2 単位以上
	看護学概論	●		2	薬理学	●		1	ヘルスケアサービス経営論	●		1	生活行動ケア応用演習	●		1	
					生化学	●		1	情報ケア科学	●		1	生活行動ケア応用実習	●		1	
	解剖生理学2		●	2	微生物学	●		1	異文化ケア科学	●		1	訪問看護過程演習	●		1	
	早期体験実習		●	1	疾病・病態学A（慢性期）	●		1	ケアと意思決定	●		1	訪問看護過程実習	●		1	
	看護倫理論		●	1	疾病・病態学B（急性期）	●		1	研究セミナー1	●		1	ケアシステム科学実習	●		2	
					公衆衛生学	●		1	臨床健康危機看護学演習	●		2	チーム医療B		○	1	
					臨床統計学	●		1	臨床健康危機看護学実習	●		3					
					生活行動ケア論	●		1	ウィメンズヘルスケア活動論	●		1	研究セミナー4		●	1	
					クリニカルスキル演習	●		2	精神行動看護学実践論	●		1	地域包括ケアシステム演習		●	1	
					成人看護学基盤論	●		2	地域包括ケア論	●		2	地域包括ケア実習		●	1	
					老年看護学基盤論	●		1	臨床療養支援看護学演習	●		2					
					在宅看護学基盤論	●		1	臨床療養支援看護学実習	●		3					
					地域看護学基盤論	●		1	子ども・発達ケアシステム論	●		1					
					精神看護学基盤論	●		1	グローバルケアコミュニケーション	●		1					
									感染看護学	○		1					
					疾病・病態学C（母性）		●	1									
					疾病・病態学D（小児）		●	1	研究セミナー2		●	1					
					疾病・病態学E（精神）		●	1	周産期ヘルスケア演習		●	2					
					感染管理論		●	1	ウィメンズヘルスケア実習		●	2					
					基礎遺伝学		●	1	精神行動看護学演習		●	2					
					ウィメンズヘルス看護学基盤論		●	1	精神行動看護学実習		●	2					
					小児看護学基盤論		●	1	高齢者ケアシステム論		●	2					
					ケアと健康福祉工学		●	1	高齢者ケアシステム実習		●	2					
					ケアと行動科学		●	1	子ども・家族看護過程演習		●	2					
					ケアと人工知能		●	1	子ども・家族看護過程実習		●	2					
					高齢者ケアと経済		●	1									
					ケア研究方法論		●	1									
					ケア・シンキングプロセス		●	1									
					フィジカルアセスメント		●	1									
					生活行動ケア基本演習		●	2									
					生活行動ケア基本実習		●	2									
					高齢者ウェルネス実習		●	1									
					チーム医療A		●	1									
	5科目			8	37科目			37	27科目			40	12科目			11	96
計	24科目			39	39科目			39	27科目			40	12科目			11	129

（注） ●印は、必修科目を示す。
○印は、選択科目を示す。

(2) 看護師・養護教諭一種モデル
実践看護科学コース

区分	1年次				2年次				3年次				4年次				単位 合計	
	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位		
基幹教育科目	初年次ゼミナール	●		2	外国語科目			2									35 単位以上 (必修25単位＋ 選択10単位)	
	情報リテラシー*	●		2	University English 3A	●		(1)										
	総合教養科目	○	○	8	University English 3B	●		(1)										
	日本国憲法*	○		2														
	その他			6														
	外国語科目			6														
	University English 1A*	●		(1)														
	University English 1B*	●		(1)														
	University English 2A*		●	(1)														
	University English 2B*		●	(1)														
	初修外国語1	●		(1)														
	初修外国語2		●	(1)														
	健康・スポーツ科学科目			3														
	健康・スポーツ科学概論*		●	(2)														
健康・スポーツ科学実習*	●		(1)															
その他選択科目			10															
	19科目			31	2科目			2									33	
専門科目	解剖生理学1*	●		2	病理学	●		1	生命倫理学	●		2	総合研究1	●		1	必修科目94単位＋ 選択(キャリア発展科目)2単位以上＋ (養教科目)1単位	
	看護学概論*	●		2	薬理学*	●		1	医療と社会福祉学	●		1	総合実習	●		2		
					生化学*	●		1	セクシュアルヘルス支援	●		1	看護教育学	●		1		
	解剖生理学2		●	2	微生物学*	●		1	コミュニケーション論*	●		1	緩和ケア学	●		1		
	早期体験実習*		●	1	疾病・病態学A(慢性期)	●		1	コラボレーション論	●		1	総合研究2		●	2		
	看護倫理論*		●	1	疾病・病態学B(急性期)	●		1	トランジショナルケア演習	●		1	災害看護論		●	1		
					公衆衛生学*	●		1	急性看護学支援論演習	●		1	リスクマネジメント		○	1		
					臨床統計学	●		1	慢性看護学支援論演習	●		1						
					生活行動ケア論*	●		1	老年看護学支援論演習	●		1						
					クリニカルスキル演習*	●		2	精神看護学支援論演習	●		1						
					成人看護学基盤論	●		2	在宅看護学支援論演習	●		2						
					老年看護学基盤論	●		1	家族看護論	●		2						
					在宅看護学基盤論*	●		1	母性看護学支援論演習	●		1						
					地域看護学基盤論*	●		1	小児看護学支援論演習	●		1						
					精神看護学基盤論*	●		1	看護研究方法論	●		1						
									看護管理学	●		1						
					疾病・病態学C(母性)		●	1	国際看護論	●		1						
					疾病・病態学D(小児)		●	1	感染看護学	○		1						
					疾病・病態学E(精神)		●	1										
					栄養学総論*		●	1	急性看護学実習*		●	3	3年後期から4年前期の1年間					
					感染管理論*		○	1	慢性看護学実習		●	3						
					健康と疫学*		●	1	老年看護学実習		●	3						
					ウィメンズヘルス看護学基盤論*		●	1	精神看護学実習		●	2						
					小児看護学基盤論*		●	1	在宅看護学実習		●	2						
					トランジショナルケア論		●	1	母性看護学実習		●	2						
					看護過程と臨床判断		●	1	小児看護学実習*		●	2						
					基礎看護学実習		●	2	地域看護学実習		●	1						
					日常生活援助技術		●	2										
					ヘルスアセスメントとシミュレーション		●	1										
					病態看護論		●	1										
					急性看護学支援論*		●	1										
					慢性看護学支援論		●	1										
					老年看護学支援論		●	1										
					精神看護学支援論*		●	1										
					在宅看護学支援論		●	1										
					地域看護学支援論*		●	1										
					母性看護学支援論		●	1										
					小児看護学支援論*		●	1										
		5科目			8	38科目			41	27科目			39	12科目				9
教職科目	教職概論*	○		2	教育課程論*	○		2	養護概説*	○		2	養護実習事前事後指導*	○	○	1	選択科目31単位	
	教育の基礎1(思想と歴史)*	○		1	特別支援教育論*	○		2	教育方法論*	○		2	養護実習*	○	○	4		
	教育の基礎2(社会と制度)*	○		1	学校保健*		○	2	生徒指導論*		○	2	教職実践演習(養護教諭)*		○	2		
	発達・学習論*	○		2	教育相談論*	○		2	ICT活用の理論と実践	○		1						
	道徳及び特別活動の指導法*		○	2														
	総合的な学習の時間(概論)*	○		1														
	6科目			9	4科目			8	4科目			7	3科目			7	31	
計	30科目			48	42科目			49	31科目			46	15科目			16	161	

(注) ●印は、必修科目を示す。
○印は、選択科目を示す。
*印は、養護教諭一種免許状取得に必要な科目を示す。
教職科目の開講年次・開講期は変更が生じる可能性があります。

先進ケア科学コース

区分	1年次				2年次				3年次				4年次				単位 合計
	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位	科 目 名	前期	後期	単位	
基 幹 教 育 科 目	初年次ゼミナール	●		2	外国語科目			2									3 5 単 位 以 上 （ 必 修 2 5 単 位 ＋ 選 択 1 0 単 位 ）
	情報リテラシー*	●		2	University English 3A	●		(1)									
	総合教養科目	○	○	8	University English 3B	●		(1)									
	日本国憲法*	○		2													
	その他			6													
	外国語科目			6													
	University English 1A*	●		(1)													
	University English 1B*	●		(1)													
	University English 2A*		●	(1)													
	University English 2B*		●	(1)													
専 門 科 目	初修外国語1	●		(1)													必 修 単 位 9 4 単 位 以 上 ＋ 養 教 用 科 目 2 単 位
	初修外国語2		●	(1)													
	健康・スポーツ科学科目			3													
	健康・スポーツ科学概論*		●	(2)													
	健康・スポーツ科学実習*	●		(1)													
	その他選択科目			10													
	19科目			31	2科目			2									
	解剖生理学1*	●		2	病理学	●		1	ゲノム医療ケア科学	●		1	研究セミナー3	●		1	
	看護学概論*	●		2	薬理学*	●		1	ヘルスケアサービス経営論	●		1	生活行動ケア応用演習	●		1	
					生化学*	●		1	情報ケア科学	●		1	生活行動ケア応用実習	●		1	
教 職 科 目	解剖生理学2		●	2	微生物学*	●		1	異文化ケア科学	●		1	訪問看護過程演習	●		1	選 択 科 目 3 1 単 位
	早期体験実習*		●	1	疾病・病態学A(慢性期)	●		1	ケアと意思決定	●		1	訪問看護過程実習	●		1	
	看護倫理論*		●	1	疾病・病態学B(急性期)	●		1	研究セミナー1	●		1	ケアシステム科学実習	●		2	
					公衆衛生学*	●		1	臨床健康危機看護学演習*	●		2	チーム医療B		○	1	
					臨床統計学	●		1	臨床健康危機看護学実習	●		3					
					生活行動ケア論*	●		1	ウイメンズヘルスケア活動論	●		1	研究セミナー4		●	1	
					クリニカルスキル演習*	●		2	精神行動看護学実践論*	●		1	地域包括ケアシステム演習		●	1	
					成人看護学基盤論	●		2	地域包括ケア論*	●		2	地域包括ケア実習		●	1	
					老年看護学基盤論	●		1	臨床療養支援看護学演習	●		2					
					在宅看護学基盤論*	●		1	臨床療養支援看護学実習	●		3					
計					地域看護学基盤論*	●		1	子ども・発達ケアシステム論*	●		1					31
					精神看護学基盤論*	●		1	グローバルケアコミュニケーション	●		1					
									感染看護学	○		1					
					疾病・病態学C(母性)		●	1									
					疾病・病態学D(小児)	●		1	研究セミナー2		●	1					
					疾病・病態学E(精神)	●		1	周産期ヘルスケア演習		●	2					
					感染管理論*	●		1	ウイメンズヘルスケア実習		●	2					
					基礎遺伝学	●		1	精神行動看護学演習		●	2					
					ウイメンズヘルス看護学基盤論*	●		1	精神行動看護学実習		●	2					
					小児看護学基盤論*	●		1	高齢者ケアシステム論		●	2					
計					ケアと健康福祉工学	●		1	高齢者ケアシステム実習		●	2					162
					ケアと行動科学	●		1	子ども・家族看護過程演習		●	2					
					ケアと人工知能	●		1	子ども・家族看護過程実習*		●	2					
					高齢者ケアと経済	●		1									
					ケア研究方法論	●		1									
					ケア・シンキングプロセス	●		1									
					フィジカルアセスメント	●		1									
					生活行動ケア基本演習	●		2									
					生活行動ケア基本実習	●		2									
					高齢者ウェルネス実習	●		1									
計					チーム医療A	●		1									18
					健康と疫学*	○		1									
					栄養学総論*	○		1									
					5科目			8	38科目			39	27科目			40	
													12科目			11	
	教職概論*	○		2	教育課程論*	○		2	養護概説*	○		2	養護実習事前事後指導*	○	○	1	
	教育の基礎1(思想と歴史)*	○		1	特別支援教育論*	○		2	教育方法論*	○		2	養護実習*	○	○	4	
	教育の基礎2(社会と制度)*	○		1	学校保健*		○	2	生徒指導論*		○	2	教職実践演習(養護教諭)*		○	2	
	発達・学習論*	○		2	教育相談論*	○		2	ICT活用の理論と実践	○		1					
	道徳及び特別活動の指導法*		○	2													
計	総合的な学習の時間(概論)*	○		1													
	6科目			9	4科目			8	4科目			7	3科目			7	
	30科目			48	44科目			47	31科目			47	15科目			18	

(注) ●印は、必修科目を示す。
○印は、選択科目を示す。
*印は、養護教諭一種免許状取得に必要な科目を示す。
教職科目の開講年次・開講期は変更が生じる可能性があります。

28. 養護教諭一種免許取得

養護教諭一種免許状取得のための履修については、次のとおりです。

- ① 養護教諭一種免許状取得には、「教育の基礎的理解に関する科目等」(26単位以上)、「養護に関する科目」(28単位以上)、「大学が独自に設定する科目」(7単位以上)、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」(9単位以上)を履修することが必要です。
- ② 「教育の基礎的理解に関する科目等」、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」は、教職課程の手引きを参照してください。なお、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」は、1年次前期から開講される科目を順次受講し、単位を修得していくことが必要です。
- ③ 「養護に関する科目」は別表1です。看護師の資格修得に係る科目以外に「学校保健」「養護概説」、実践看護科学コースでは「感染管理論」、先進ケア科学コースでは「栄養学総論」「健康と疫学」の単位修得が必要となります。
- ④ 「大学が独自に設定する科目」は、「養護に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、最低修得単位数を超えて修得した単位を算入します。本学における最低修得単位数は、2単位です。本学の場合、「養護に関する科目」のうち、看護師の資格取得に係る必修科目を修得することで、「大学が独自に設定する科目」の要件を満たすことができます。
- ⑤ 「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」は、「日本国憲法」を除いた科目は、卒業要件に必要な科目となっていることから、必ず「日本国憲法」を選択履修し単位を修得する必要があります。
- ⑥ 養護実習を履修できる者は以下のとおりです。

「教職履修カルテ」を記載し、教員の面談を受ける必要があります。

実習履修の前年度終了時まで、「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち、必修科目14単位、選択必修科目5単位以上(各事項から1科目以上)を修得した最終年次の者であること。かつ、3年次後期末までに開講された実習の単位を修得見込み又は修得済みであること。(看護師・養護教諭一種履修モデル参照)

(ただし、教職科目は、教職課程の手引にしたがって単位を修得していること)
- ⑦ 養護実習にかかる費用は、全額学生負担となります。

別表 1 養護教諭一種免許状取得に必要な「養護に関する科目」

養護に関する科目	最低修得 単位数	実践看護科学コース	先進ケア科学コース
		授業科目名（単位数）	
衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）	4	公衆衛生学（１）	
		健康と疫学（１）	
		地域看護学基盤論（１）	
		感染管理論（１）	
学校保健	2	学校保健（２）	
養護概説	2	養護概説（２）	
健康相談活動の理論及び方法	2	コミュニケーション論（１）	地域包括ケア論（２）
		地域看護学支援論（１）	
栄養学（食品学を含む。）	2	栄養学総論（１）	
		生化学（１）	
解剖学及び生理学	2	解剖生理学１（２）	
「微生物学、免疫学、薬理概論」	2	薬理学（１）	
		微生物学（１）	
精神保健	2	精神看護学基盤論（１）	
		精神看護学支援論（１）	精神行動看護学実践論（１）
看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	10	看護学概論（２）	
		早期体験実習（１）	
		看護倫理論（１）	
		生活行動ケア論（１）	
		クリニカルスキル演習（２）	
		ウィメンズヘルス看護学基盤論（１）	
		在宅看護学基盤論（１）	
		小児看護学基盤論（１）	
		小児看護学実習（２）	子ども・家族看護過程実習（２）
		小児看護学支援論（１）	子ども・発達ケアシステム論（１）
		急性看護学支援論（１）	臨床健康危機看護学演習（２）
		急性看護学実習（３）	臨床健康危機看護学実習（３）
最低修得単位数計	28		

29. 新生児蘇生法「一次」コース修了認定資格

新生児蘇生法「一次」コース（以下、Bコース）では、気管挿管、薬物投与を除く基本的な新生児蘇生法を習得し、修了認定資格を取得できます。

- ① Bコースの修了認定資格取得のための科目と方法については、次の通りとします。
 - ・ Bコースの修了認定資格取得のための授業科目である4年次後期開講の専門科目・キャリア発展科目「新生児クリティカルケア（選択科目）」を受講し、授業内で実施されるBコース実技講習会を受講してください。
- ② 「新生児クリティカルケア」の履修を許可する人数について
 - ・ 「新生児クリティカルケア」の履修を許可する人数は、20名を限度とします。
 - ・ 履修希望者が上限を超えた場合は抽選を行います。
- ③ Bコース修了認定
 - ・ 講習会当日に行われる筆記試験に合格し、各自認定申請手続きを行ったのち、修了認定証が発行されます。
 - ・ 別途、認定料がかかります。

30. 看護師国家試験受験資格

厚生労働省が実施する看護師の国家試験受験資格を得るには、保健師助産師看護師法第19条～21条に定める科目の単位を修得する必要があります。

本看護学部卒業要件である129単位は、看護師の国家試験受験資格を充たしています。

31. 大学院科目の先行履修制度（学士修士一貫プログラム）

連動する看護学部・看護学研究科において、在学期間が連続した学士修士一貫プログラムを前提として「大阪公立大学学部・学域生の大学院授業科目先行履修制度」を導入しています。

本制度（プログラム）には、看護学部在学中に博士前期課程の授業科目を先行履修する「先行履修コース」と、大阪公立大学大学院学則第31条第1項に基づく在学期間の短縮を組み合わせることにより、学部入学から通算5年間で博士前期課程の修了を可能とする「早期修了コース」があります。

看護学部看護学科に3年以上在学し大学院に進学を志望する者で、必修の基幹教育科目および必修の専門科目ならびに各コースにおいて指定される選択科目の単位を優秀な成績で修得した学生を対象とし、4年次当初から博士前期課程の科目を履修する「先行履修」を許可します。

＜先行履修コース＞

4年次より研究科博士前期課程の科目の先行履修を開始し、通常の入学試験を経て次年度4月に研究科博士前期課程修士論文コースに入学し、標準修業年限2年での修了を目指します。

＜早期修了コース＞

4年次より研究科博士前期課程の科目の先行履修を開始し、通常の入学試験を経て次年度4月に研究科博士前期課程修士論文コースに入学し、優れた業績をあげ研究科博士前期課程の修了要件を満たすことにより、1年間で研究科博士前期課程の修了を目指します。ただし、学部入学から通算5年間で研究科博士前期課程の修了を保証するものではありません。

（プログラムの利用の制限）

本プログラムで先行履修が可能な科目は研究科が指定する科目であり、単位数は12単位までとします。

本プログラムは、修士論文コースのみで実施します。ただし、「修士論文コース」のうち、母性看護・助産学（助産師資格取得プログラム）対象者は、早期修了コースの対象外です。

下記利用条件を満たし申請のあった学生のみとします。

（手続き等）

時 期		内 容 先行履修コース	内 容 早期修了コース
学 部	3年次（8月）	動画配信	
	3年次後期 （1月末）	3点資料提出 ①「利用申請書（様式1）」 ②「誓約書（様式2）」 ③「学士修士一貫プログラム履修計画表（様式3）」	4点資料提出 ①「利用申請書（様式1）」 ②「誓約書（様式2）」 ③「学士修士一貫プログラム履修計画表（様式3）」 ④「早期修了コース利用申請に関わる研究テーマ等資料（様式4）」
	3年次後期末 （3月初旬）	「受講許可願（様式5）」を提出	
	3年次後期末 （3月末）	学生へ通知	

	4 年次前期 (4 月～)	学士修士一貫プログラム履修計画表に沿って先行履修を開始する。	学士修士一貫プログラム履修計画表に沿って先行履修を開始することにあわせて、指導予定教員に相談し、双方合意の上で修士論文を想定した研究活動を開始する。
	4 年次 (夏期)	大学院入学試験を受験、合格	
	4 年次後期末	学部卒業 (学士の学位を取得)	
大 学 院	1 年次 4 月	先行履修した科目の単位認定手続きを行う。 修了要件に必要な残りの科目を計画的に履修する。	先行履修した科目の単位認定手続きを行う。 研究活動を継続しながら、修了要件に必要な残りの科目を計画的に履修する。
	1 年次 9 月		「早期修了見込の判定(様式 6)」を受ける。
	1 年次 12 月		「修了年限短縮 (様式 7)」の申請を行う。
	1 年次 1 月～2 月		「学位授与申請書」を提出し、学位審査を受ける。 ※手続きは通常の前期課程の修了年次生と同様
	1 年次末		学位審査に合格すれば修了となる (修士の学位を取得)。
	2 年次	研究活動を継続しながら、修了要件に必要な残りの科目を計画的に履修する。	

(利用条件)

3 年次後期終了時に下記のすべての要件を満たしていることが必要です。

- ① 学部在籍期間が 3 年以上である。
- ② 学部 3 年次後期までに開講され単位が与えられる必修の基幹教育科目および必修の専門科目ならびに各コースにおいて指定される選択科目の単位を全て修得している。
- ③ 学部 3 年次後期までの通算 GPA が 3.1 以上である。
- ④ 利用申請が認められた場合には、看護学部在学中に本研究科博士前期課程の入学試

験を受験することを確約できる。

(申請方法と承認)

「学士修士一貫プログラム」の利用を希望する学生は、上記手続きに沿った申請書類を提出してください。

申請書類の提出期日は別に定めます。

本人の申請に基づき、学生が所属する大学の教務委員会で審議後、教授会で承認します。

学部3年次終了時の成績が確定した後、申請時と同様の流れで確認し、利用条件を満たすことができなかった場合には、学士修士一貫プログラムの申請はなかったものとみなします。

大阪公立大学看護学部

〒545-0051 大阪府大阪市阿倍野区旭町 1-5-17

阿倍野キャンパス

TEL 06-6645-3511 FAX 06-6645-3513

〒583-8555 大阪府羽曳野市はびきの 3 丁目 7 番 30 号

羽曳野キャンパス

TEL 072-950-2978 FAX 072-950-2131